

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

公民館で「リタイア充実ライフ」

「定年で地域デビュー」

「定年後は、地域や人とのつながりが宝物」という野間春二さん（現公民館運営審議会会長）に、「自身の公民館活動について伺いました。」

▼公民館との出会いは？

定年退職を迎え、「これまでの会社人間から、1日24時間を地域で過ごすことになる。さて、これから毎日をどうやって過ごすか」と考えていた時に、目にしたのが公民館だよりの芝久保公民館主催の陶芸講座でした。土遊びもおもしろそうだし、これまでできなかったことを体験するのもありかと、参加しました。講座も終わるころ、受講者仲間と活動を続けていきたいとの思いから、サークルが発足15年後の今も続いています。

▼公民館活動から得たものは何ですか？

やはり、人とのつながりのありがたですね。

陶芸サークルを立ち上げる時、なり手がなかったため、気負いもなく、仕方がないくらいに気持ちで代表を引き受けました。代表になったので、その年度の3月に開かれた芝久保公民館主催の利用者懇談会に参加しました。

5月ごろ、また利用者の会があるというので参加すると、それは公民館主催の集まりではなく、公民館を利用する市民の団体「芝久保公民館利用者連絡会（略称「利用連」）の会合だったのです。何も知らずに会場のドアを開けると、そこに数名の女性がいました。「あっ、間違えました」と帰ろうとした時、

「まあまあ、せっかく来たのだからお座りください」と呼び止められ、そこから利用連とのかわりが始まりました。

利用連の定例会では、「社会教育とは」「公民館とは」など基本的なことを教えてもらいました。それまで教育と言ったら義務教育、家庭教育の言葉しか知らなかった私には、社会教育は異次元の言葉でした。利用連のメンバーは、私にとって家庭教師のような存在で、この出会いが、公民館ライフを楽しむ一端となっています。

以来、公民館だよりや館内のチラシに興味を持って丁寧にみるようになり、他館の講座やイベントにも参加、複数のサークルで活動するようになりました。

▼公民館以外にも地域で活動されているそうですね？

公民館を通して「地域デビュー」した私は、初めての体験に関心をいただき、社会福祉協議会主催の講座にも参加しました。会場だった保谷障害者福祉センターに出入りするうちに、点字・点訳グループ「どんぐりの会」に出会い、入会しました。活動にかかわって今年で10年になります。

また、センターの職員に声をかけられて、音楽療法のお手伝

いもするようになりました。

4年前には、これも社会福祉協議会の主催で、居場所づくりがテーマの講座に参加しました。その講座終了後、参加者仲間、だれもが集える居場所「チャオ」を立ち上げ、現在も月1回開催しています。

どの場合も、特に「ボランティアをする」という気持ちからはなく、興味を持って始めたことが、結果としてボランティア活動にもつながっていったという感じです。

▼もし、公民館との出会いがなかったら？

どうなっていたかなあ。公民館を含めたフィールドがあつて、忙しい日常を送っています。そこが空白になったとしたら、日常がなくなっていくかなんか、怖い気がしますね。

▼これから公民館を利用する人にアドバイスをお願いします。

公民館は知識の宝庫、宝の蔵です。公民館という堅苦しく感じるかもしれませんが、もっと気軽に公民館の講座などに参加してほしいと思います。私も、最初に陶芸の講座を受けた時は、特段の気構えもなく、いい意味で軽い気持ちで参加しました。

講座やサークルというと、どうしても女性の参加が多く、男性がその中に入っていく時には躊躇（ちゆうちゆう）することもありますが、私もそうでした。

でも、そこは「えいー」という感じで入ってしまえばいいのです。入ってしまえば、そのあとは何とかなるものです。

まずは、フットワーク良く、公民館に一步踏み込んで！

シユートレンの会 ドイツの文学を味わう



有名ドイツ菓子の名前を付けた「シユートレンの会」は、芝久保公民館主催講座「ドイツ文学の楽しみ」がきっかけで、昨年4月に発足しました。現在会員9人がドイツ文学やドイツ文化を中心に学習しています。

わし合う様子、子は、まるで大学のゼミのよう。

取材した日は、「カフカの生涯について学ぶ」をテーマに、会員の井上さんが作成した資料（カフカが住んでいた当時のプラハの地図）を元に、皆で語り合っていました。

会員の大越さんは「この会では小説の感想を語り合うだけでなく、歴史などの背景も学ぶんですよ。時空を越えたグローバルスタディです」と語ります。とはいえ、「勉強会だけでは続きませんから」と、ドイツ映画のDVD鑑賞会や、ピアノとギターを生演奏によるコンサートを開くなど、みんなで楽しむ活動も取り入れています。次回は親睦もかねて、江戸東京たてもの園に行くのだと、会員は皆笑顔で語ってくれました。

「職場も住居もプラハで、彼は一歩もプラハの街から出ていないことがわかりましたよ」作品に出てくる教会は「こね」この職場で14年間も公文書を作成し続けた能力が、小説に生かされたのでは？」というように、資料を元にして活発に意見を交

同会は芝久保公民館で月2回、金曜日の午後活動しています。 蓮川上 ☎080-5651-0516

写真で見る いまむかし 六角地蔵尊交差点

東京大学田無演習林入口近くにある石幢六角地蔵尊は、江戸時代後期の1779年に6本の別れ道（前沢みち・南沢みち・保谷みち・江戸みち・小川みち・所沢みち）に建立され、その脚部にはそれぞれの道の方向を示す道標が刻まれています。以前は所沢街道をはさんだ向かい側にありましたが、昭和59（1984）年に現在の場所に移されました。



昭和35(1960)年ごろ(左が所沢街道) 西東京市中央図書館 地域・行政資料室所蔵



現在の交差点付近。左端に写っているのが西東京市指定文化財の石幢六角地蔵尊 撮影：水口トミオ(保谷町在住)